

境界を越える協力 学問領域と文化

アジアにおけるアスベスト使用の増大によってもたらされる脅威を調べる最初の機会は、二〇〇四年世界アスベスト東京会議（GAC2004）の開催に参加した国際的なアスベスト被害者団体、NGO、労働組合、政府機関、及び日本の支援団体によってもたらされた。世界四〇か国から八〇〇人の参加者を得たこのイベントは、危険なアスベスト曝露のために建設労働者によって支払われた犠牲についての認識が増大していることを強調しつつ、広範な医学的、法的、疫学的、生化学的、環境的、社会的及び政治的諸問題に目を向けた。国際的な労働組合の連合組織及び数百人のアジアの労働運動家の代表が参加した。日本、インド、オーストラリア、カナダ、アメリカ、ウエールズ、及び北アイルランドのアスベスト被害者とその家族の参加は、世界中で増大する被害の発生を实在の問題としてとらえさせた。GAC2004は地域でのアスベスト議論の契機を提供し、地域でのアスベスト対話の進捗が得られた二〇〇六年七月のバンコクでのフォローアップ会議をはじめ、多くの共同の取り組みを生み出した。アジア・アスベスト会議（AAC2006）にタイの高級政治家及び公務員が参加したことにより、タイ代表らがタイの地方アスベスト施設の労働条件の調査がなされていないという問題について、一対一の議論に参加することができた。WHOから参加した労働衛生専門家イワンDイワノフ博士は、このAAC2006はアスベスト関連疾患の拡大を抑制するための地域及び世界の取り組みにとって「重要な一里塚」であると述べた。